



院内インフォメーション

年末年始の診療体制が決定いたしました。ご不便をお掛けしますが、何卒よろしくお願いいたします。また、病院指標公開についてもお知らせいたします。

年末年始 診療のご案内

2024 12/28 土	2024 12/29 日	2024 12/30 月	2024 12/31 火	2025 1/1 水	2025 1/2 木	2025 1/3 金	2025 1/4 土
通常通り	休診	午前診療のみ	休診	休診	休診	休診	通常通り

※ 救急外来は24時間対応しております。
 ※ 新患の方、初診料を算定する方は診察代とは別に自費分5,500円が発生しますのでご了承ください。
 ※ 諸事情により変更となる可能性もございますのでご了承ください。

病院指標を公開しました

DPCデータを用いた病院指標・令和5(2023)年度版を当院のWEBサイトに公開しています。

これは当院の診療状況や様々な機能・医療の質を数値で示し、客観的に評価するもので、厚生労働省が定めた全国統一の定義と形式に基づいて作成しています。ご興味のある方は当院ホームページの「DPC対象病院 病院情報の公開」(<https://kmh.or.jp/dpcinfo/>)をご覧ください。



「令和5年病院指標」はこちらのQRコードからご覧ください。

編集後記

秋日和の週末、東京の小さな美術館へ行ってきました。皆さまはアートと健康の関係に興味がありますか？WHOの「芸術が健康と幸福に与える影響」に関する複数の研究の結果、生涯にわたる病気の予防、健康の促進、病気の管理と治療においてアートが重要な役割を果たすことが明らかになったとしています。高尚な芸術鑑賞の必要はなく、自身が楽しい事が重要だとか。機会があればまた訪れてみたいと思います。

広報戦略部 和田

当院の基本理念

私たちの病院の使命-Mission-
質の高い急性期医療を通して地域社会に貢献します。



日本医療機能評価機構
認定病院 (3rdGVer.2.0)



JQA-QMA14243
ISO9001:2015
認証取得病院



ピンクリボン運動
を応援します。

ひかり

vol.142
2024.11

ご自由にお持ちください

Kikuna Memorial Hospital News Letter

Contents



- 特集
地域に寄り添い、
ともに歩む
- 看護部だより
- なるほど!リハビリ科新聞 vol.2
- 院内行事紹介
- KMh -TOPIC-



〒222-0011 横浜市港北区菊名4-4-27
 【TEL】045-402-7111(代表) 【FAX】045-402-7331
 【URL】<http://kmh.or.jp/> 【MAIL】kikuna@kmh.or.jp

地域に寄り添い、ともに歩む。

～地域に貢献するために私たちにできること～

菊名記念病院と地域医療

当院は、横浜市港北区に位置する急性期医療特化型の病院です。1991年の開院より長年に渡り、地域に根ざした医療を提供してまいりました。

『救急車の受け入れを断らないこと』をモットーに、年間約7,000台以上の救急車を受け入れています。

また2010年には、神奈川県知事より「地域医療支援病院」の承認を受けました。「地域医療支援病院」では地域の医療機関の先生方からのご紹介を受け、詳しい検査や入院加療、専門的医療が必要な患者さまに対し、適切な医療を提供することを使命としています。



外来受け入れをさらに強化しています

当院では15以上の診療科目を標榜し、通常の外来診察のみならず、緊急手術・カテーテル治療にも24時間 365日対応できる診療体制を整えています。

また2024年春頃から循環器・消化器・不整脈センター・睡眠時無呼吸外来・内視鏡外来・画像診断センターなどを強化し、専門的な診療を通して、地域住民の幅広いニーズに応えています。

▶地域のみなさまへ

【当院の受け入れ体制】

15以上の診療科での外来受け入れはもちろん、緊急手術・入院などの救急対応も行なうことができます。また当院は地域医療支援病院であり、かかりつけ医の先生方からの紹介も多く、地域の医療機関と常に緊密に連携をしています。ほかに、入院時・通院時・退院時の心配事のご相談にのれるよう医療相談室も設置しております。お気軽にご相談ください。

当院は完全予約制です

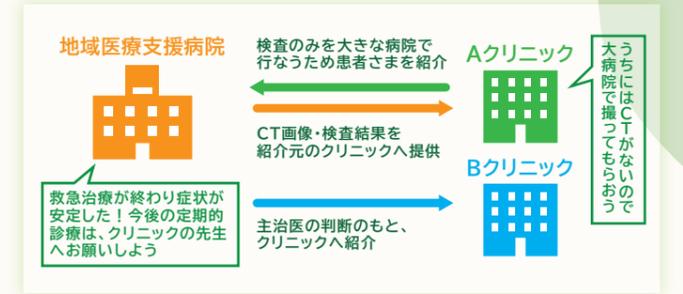
外来:045-402-7015
(平日・土曜 8:30~17:30)
女性外来・乳腺センター:
045-402-7035
(平日 8:30~17:30 土曜 8:30~12:30)

医療相談室へはコチラ

予約:045-402-7111(代)
(予約受付 月~金曜 9:00~17:00
土曜 9:00~12:00 ※日・祝日休み)
場所:当院2階

【地域医療支援病院とは?】

かかりつけ医との適切な役割分担と連携を通じ、地域医療の充実を図る病院のことです。たとえば、重症患者さまには大きな病院を、風邪などの軽症患者さまには地域のクリニックを受診いただくことで、医療機関ごとの長がフル活用できます。当院は救急患者さまの受け入れをメインとし、各クリニックとの連携の中でその役割を全うしてまいります。



POINT

- 様々な症状に対応する15以上の診療科を常設
- 新たに不整脈センターや睡眠時無呼吸外来等も増設
- 医療機関からの紹介患者さま受け入れ
- 医療機関からの要請に応じ、お迎え救急搬送サービスを実施

今後もより一層、地域の医療機関と積極的に連携・協力を図り、皆様が安心して暮らすことのできる地域づくりに、貢献してまいります。

▶医療機関のみなさまへ

【地域医療連携室が地域医療機関との懸け橋に】

患者さまに迅速かつ適切な医療サービスの提供ができるよう、紹介の窓口として地域医療連携室を設置しております。主な役割としては、① 地域の先生方からの紹介状をお持ちいただいた患者さまへの対応 ② 当院医師からご紹介元の先生方への検査結果・手術結果などの報告業務などです。

また、当院へ直接来院され、緊急を要する検査や手術などが終わり症状が安定された患者さまに対して、ご自宅や勤務先周辺の医療機関の検索・ご紹介や、症状やご希望にあった医療機関のご案内なども行なっております。



【医療機関さまへのサポート体制】

- **安全で良質な画像情報の提供**
高性能な画像診断装置を用い、医療機関の先生方からのCTやMRIなどの検査依頼にも広く対応しております。24時間365日の受け入れ体制があり、放射線読影医による専門的な画像情報の提供を行なっています。
- **お迎え救急搬送サービス**
訪問診療を行っている先生方の訪問先(患者さま宅や施設等)において、急患が発生した場合、救急救命士を中心とするチームがお迎えにあがり、当院までの搬送および車内での応急処置を担います。ご自身での通院が困難で、緊急処置が必要な場合にご連絡をお願いいたします。またクリニック内で発生した急変にも出動可能です。詳しくは、「菊名記念病院 地域医療連携室」までご相談ください。 ※一般の患者さまはご利用いただけません



当院では多くの看護師が働いています。全員が同じ業務をしているわけではなく、その時々に応じて専門知識を持つ看護師が中心となり、最適なケアを提供しています。今回は認定看護師をご紹介します！

なぜ？教えて！ 認定看護師とは何か

「特定の看護分野を極めたスペシャリスト」のことです。5年以上の看護経験と半年以上の研修を終え、日本看護協会による審査に合格し認定を取得しています。

熟達した知識と技術を活かした看護の実践・スタッフ指導・アドバイザーの役割を担います。

現在、当院では4名の認定看護師が活躍しています。それぞれが高い専門性を活かし、意欲的に日々の看護にあっています。より多くの患者さま・ご家族をサポートさせていただきたいと考えておりますので、各窓口でお気軽にお問い合わせください。今回は、各専門分野の説明や看護に対する想い、横顔を質問形式でご紹介します。

質問リスト



- 1 担当する専門分野の役割をおしえて！
- 2 その分野を専攻した理由は？
- 3 『やりがいがある』と思えるのはどんな時？
- 4 ズバリ、座右の銘は？
- 5 休日のリフレッシュ方法



【クリティカルケア分野】
北島 由紀子課長

1 『クリティカルケア』では、救急外来や集中治療室など、病院の入口(救急搬送)から出口(退院)、その後まで考えケアしていくことが求められます。また、「実践」「指導」「相談」の3つの役割があり、特にベッドサイドで患者さまに対し、特定行為を活かし重症化回避と合併症予防、早期回復に向けた看護を「実践」しながら、スタッフへの指導・相談にも対応しています。

2 命の危機が迫る場面にいる患者さまとご家族を、身体的・精神的・社会的にサポートしたかったためです。
3 自身と医師の見解が一致・共有できたことで、良い看護を提供でき、患者さまが回復に向かわれた時。
4 『意志あるところに道は開ける』意志があれば、どんなに困難な事でもやり遂げられると思っています。
5 アイロンがけ



【集中ケア分野】
茶畑 亜矢子係長

1 危機的状況または重症病態の患者さまの看護問題について、臨床で実践・指導・相談役を担い、個性のある看護ケアを提供するのが役割です。
2 質の高い看護ケアを行うためには自分だけではなく、部署全体で実践することが重要だと思っています。その為には、教育的役割が重要だと考え、資格取得を目指しました。
3 患者さまが重症状態や危機的状態を脱した時、

またご本人やご家族と治療や看護について話し合う場をもち、納得いく治療・看護に向かうことができた時です。
4 『強くしなやかに』困難が多い現場なので、しなやかさをもち、対応していくことが大切だと思っています。
5 サーフィン / サウナ / 温泉 / おいしいものを食べる / かわいいものをみて癒される



【慢性心不全看護分野】
山元 なお香係長

1 心不全をはじめとする循環器疾患の患者さまとご家族が、生活の質を維持・向上しながら過ごせるよう、より専門的なケアを提供します。
2 循環器病棟と集中治療室勤務の経験から、発症前～終末期まで心不全について深く学び、患者さまとご家族への看護に活かしたいと考えたからです。
3 患者さまが病氣と向き合い、お付き合いしながら、できる限りご希望に沿った生活が送れて

いるのを確認できた時。
4 『一期一会』人との出会いによって今の自分がいると思うからです。相手の方にもそうしてもらえたいと思います。
5 仕事のことはすべて忘れる、好きなことをする。



【慢性心不全看護分野】
田坂 将太主任

1 心不全の患者さまは、増悪と寛解を繰り返すため、日常生活に様々な制限や苦痛が生じます。その様々な症状と原因をとらえて、その人らしさを尊重した生活を支援していくことがこの分野の役割です。
2 看護師として働きはじめた頃から関心のある分野で、心不全と付き合いながら生活する患者さまやそこに携わる看護師を実際にみてきて、より取り組んでいべきことだと思ったからです。
3 チームで関わり、患者さまに関わるスタッフが

それぞれの役割を發揮できたときです。医療者の行なったことが患者さま・ご家族にどのように伝わっているかを確認するように心がけています。
4 『3人寄れば文殊の知恵』一人で解決困難な問題に直面した際だけでなく、普段からチーム医療を意識してよく相談すること、相談を受けやすい雰囲気を作ることを心がけています。
5 4歳の娘と一緒によく動き、よく食べ、よく学ぶこと。

なるほど！ リハビリ科新聞



リハビリテーション科
技士長
鈴木 章之

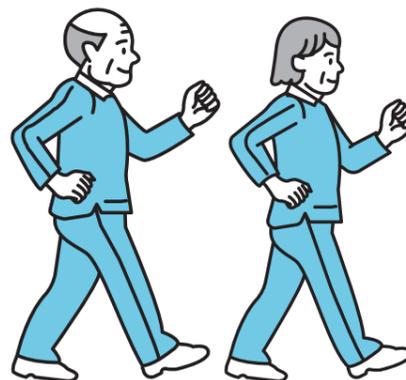
ウォーキングのすすめ



ウォーキングが体に良いことは、皆さんなんとなく理解されていると思います。でも、「何がいいのか?」「どんな効果があるのか?」「どのくらい、どんなウォーキングをすればいいのか?」など、疑問もあるのではないのでしょうか。



どのくらい、どんなウォーキングをすればいいの?



以前まではウォーキングは続けて20分以上行うほうが良いとの見解が多かったですが、最近では細切れの歩行でも一日の合計歩数が目標歩数を満たせば効果があると言われていました。

目標歩数は文献によって多少異なりますが、概ね7,000~8,000歩で様々な病気の予防効果が得られると言われていました。

歩行速度は普段より少し早く歩く程度で、息切れがない範囲で行うのが良いですが、普段の歩行速度でも大丈夫です。人それぞれの筋力や体力・持病などによって目標値や歩行速度は変わりますので、無理のない範囲から始めていくのが良いでしょう。

ウォーキングの効果

ウォーキングの効果としては、筋力・体力の向上だけでなく、生活習慣病の改善や心血管疾患の予防、最近では認知症の予防やがんの発症の予防にも効果があるとの報告があります。

万病に効く薬は創作の中の話であり実際にそのような薬はありませんが、もしかしたらウォーキングが万病に効果のある薬に一番近いのかもしれない。



皆さんも無理のない範囲から
ウォーキングを始めてみてはいかがでしょうか。

院内行事紹介

2024.09.01～10.31

菊名記念病院のHOTな
ニュースをご紹介します。



NEWS1 9/9 第162回 院内症例検討会

第162回の院内症例検討会では、『入院時重症患者対応メディエーターの活動の実際と今後の課題』というテーマで、看護部の澤田課長が講義しました。“入院時重症患者対応メディエーター”とは、急な病気・事故により重篤な状態で救急搬送された患者さまとご家族をサポートする役割のスタッフのことです。お気持ちの整理や意思決定のお手伝いをし、患者さまと治療スタッフの“架け橋”となります。より多くのメディエーター育成を目指し、今後当院でも積極的に取り組めればと思います。



NEWS2 9/30 ISO外部監査

9月末にISO外部監査を受審しました。外部監査では、院内のサービス・運営体制などの第三者機関による審査が行われます。国際的な規格に従って、質の高い医療を安全に提供するための組織体制・サービスがきちん確保できているか定期的にチェックを受けることで、病院全体の質の担保と向上を目指します。今回受けた指摘をもとに、今後も改善を続けていきたいと思えます。より質の高い医療の提供を目指し、病院一丸となり努力を続けてまいります。



NEWS3 10/28 保育室 ハロウィン

ハッピーハロウィン♪あいにくのお天気で外には行けなかったので、魔女さんに保育室に遊びに来てもらいました。1人ずつお菓子を受け取り、最後はみんなでハイチーズ！



NEWS4 10/22 第161回 糖尿病教室

今年度に入ってから3回目の糖尿病教室を行ないました。秋晴れの気持ちいいお天気に恵まれる中、なんと20名もの参加者さまがお越しくださいました！今回は、間食の上手なとり方・インスリン注射の取り扱い方・血糖値の自己測定方法等の実践的内容に始まり、意外と知られていない合併症『網膜症』についてお話いたしました。複数回お越しただいでいる方から初参加の方にいたるまで、熱心に本講義を聞いてくださいました。講義内容が皆さまの日常生活の役に立ち、明るく健康な毎日を過ごすための一助となれば幸いです。次回は12月24日の開催を予定しております。詳細はHPよりご確認ください。



NEWS5 10/30 看護の日フェスティバル

数年ぶりに『看護の日フェスティバル』を開催しました。もともと大好評だった年1回の本イベントですが、コロナ禍を経て久々の開催ということもあり、当日は多くの方にお越し頂きました。定番の血圧測定や骨密度検査などに始まり、管理栄養士による栄養相談やソーシャルワーカーによる生活相談など大変充実した内容で、多くの方に楽しみながら健康について考えて頂く機会となったようです。また、「もしもカード」コーナーでは自分の終末期ケアについて考えながらカードゲームを行いました。来年も開催を予定しております。どうぞご期待ください。



BREAK1 10/30 今月の表紙紹介



11月号の表紙は・・・
『山茶花と冬の訪れ』

朝夕、頬をなでる風の冷たさにハッとすることこのごろ。

冬の訪れを感じると共に、厳しい寒さの中であってなお煌めきを増す山茶花の色彩美に心が温まります。



BREAK2 10/30 災害支援活動 感謝状授与

1月に発生した能登半島地震において副院長・藤岡医師がJMAT隊員として派遣・参加をした災害支援活動について、感謝状を頂戴しました。被災地の皆さまには、引き続き心からのお見舞いを申し上げるとともに、我々が支援できることを今後も模索していきたいと思えます。



※JMATとは、被災者の生命及び健康を守り、被災地の公衆衛生回復・地域医療の再生支援を目的とした医療支援チーム。日本医師会が統括。

KENSAN - 研鑽 -

Volume 17



当院では、様々な人材育成研修に取り組んでいます。院全体で次世代スタッフを育てるべく、参加者も真摯に研鑽を積んでいます。当コーナーではその学びの様子を紹介します。

KENSAN1 10/29 看護部主催研修 第6回新人研修 3分間スピーチ

「この半年で経験した体験を振り返り、看護について考えることが出来る」というテーマで新人看護師にエピソードを3分間で語ってもらう発表会を開催しました。内容は多岐にわたり、この半年での成長を垣間見ることができました。全新人のスピーチ発表後には、各病棟のリーダーから心温まるメッセージが贈られました。新人看護師の今後の活躍が楽しみになる発表会でした。



KENSAN2 10/5.19 人材開発室主催研修 臨床倫理

新入職員を対象に、臨床倫理に関する研修を行ないました。臨床現場において患者さまが直面する治療法・療養場所等の選択に関する意思決定は、そこに携わる多職種が協働し支援することがとても大切です。いくつかの事例を用いてグループワークを行ない、皆真剣に取り組む姿が伺えました。医療従事者として高い倫理観を求められることや、患者さまにとって最善を考える視点を持つことが大切であることを学べた意義深い研修となりました。

